



2024年7月号(No.19)
 公益社団法人 日本山岳会
 The Japanese Alpine Club
 東京都千代田区四番町5-4
<https://www.jac1.or.jp>

3カ月に一度発行する「山」ユース版では、ユース世代の会員の活躍をご紹介します。ユースクラブに関心のある方は、ユースクラブ委員会のメールアドレスにご連絡ください。

✉ jacml-yc@jac1.or.jp

【編集担当】
 松原尚之
 滝沢守生
 谷山宏典
 田島圭悟
 新井 梓

シリーズ「目指せ! 北鎌尾根」前半戦を振り返る

「憧れ」の北鎌尾根を登るため、4月から始まったユースクラブの講習山行「目指せ! 北鎌尾根」シリーズ。参加者のひとりである白石延之さんに1~3回目の前半戦を振り返ってもらった。

北鎌尾根——2018年に表銀座を歩いたとき、ビックリ平から眺めた。槍ヶ岳まで続く岩稜に圧倒され、「目指す」というより、眺めて「憧れる」存在だと思っていた。それがこの「目指せ! 北鎌尾根」シリーズが発表され、「挑戦できるかも」と思い、真っ先に手を挙げた。バリエーションルートの経験は、皇海山クラシックルートで一部の破線ルートを歩いたくらい。岩稜歩きは刃岳別山尾根や、鹿島槍ヶ岳の八峰キレットなどの経験はあるものの、クライミングやロープワークの経験はほぼ皆無。しかし、約半年間、計5回の講習プログラムをしっかりとモノにすれば「なんとかなる」と信じ、これまで4月~6月の3回の講習に参加した。

4月は「丹沢モミソ沢・懸垂岩」。経験のない私にとってはこの初回に参加したのは大きかった。初日は沢に入らず、岩場でロープワークの基礎をみっちり教わった。様々なロープの結び方、さばき方といった基本的な技術に加え、リード&フォロー、懸

垂下降の所作を学ぶことができた。この回では、講師についていただいた松原尚之ユース委員長と千葉支部の平野直子さんに加え、経験豊富な他の参加者の皆さんにもサポートいただき、それぞれ皆さんのやり方から覚えやすい方法を選択できたことで効率よく習得できた。

基本的な所作を覚えた初回からステップアップし、第2回目の「両神山赤岩尾根」は実践。パートナーと確保し合いながら進む練習だが、高度感からの恐怖も手伝って初回で覚えたことがなかなかスムーズにできない。そんな中でも、この回の講師の杉原一樹さん、西田由宇さんから様々なアドバイスをいただき、また自ら考える機会も多くいただいたことで、体で覚え始めたという実感。

続く6月の第3回は「表妙義」。白雲山と金洞山を2日間にわけて歩いたが、まさにバリエーションルートの洗礼を受けた。「ビビリ岩」「鷹戻し」「二段ルンゼ」など、次々と課題が立ちはだかる。ロープを出す頻度も増え、パートナーとのコミュニケーションや確実な動作が求められる。動作が1つ増えるだけでもたつく場面もあったが、松原さん、平野さんからのご指導に加え、参加者の皆さんの動作を見ることによって、ステップアップできたと思う。

北鎌尾根まであと2回、少しは慣れてきた。次回からはもっと気持ちにゆとりをもって、動作の流れを意識してスピードアップしていくことが目標。

挑戦は続く。 (ユースクラブ 白石延之)

【本シリーズの山行は今後、第4回「7月/明神岳南西尾根~前穂高岳縦走」、第5回「8月/戸隠山」と続き、9月に北鎌尾根にチャレンジする予定】



ロープワーク講習後に実際に懸垂岩を登る

自然首都・只見の秘境「浅草岳」

ユースクラブ×福島支部 交流山行企画

日本三百名山にも選定されている浅草岳。新潟・魚沼と福島・只見にまたがる、高山植物の宝庫であり、言わずと知れた名峰である。今回、ユースクラブと福島支部で交流山行企画を実施した。

6月8日から9日にかけて、ユースクラブと福島支部合同で、浅草岳日帰り縦走登山を実施した。この企画に至るには、きっかけがあった。1月に福島支部で「樹氷を觀賞する」と題し、^{にしだいてん}西大嶺（福島と山形の県境にそびえる吾妻連峰の中で西端に位置する山）での山行を実施した（私はあいにくこの山行には参加できなかった）が、そこで偶然にも同じ日に登っていたユースクラブの方々とバッタリお会いしたそうだ。福島支部がザックからJAC旗を取り出し、写真撮影をしようとしているそのとき、見つけていただいたと聞いた。まさに、旗が見つないだ奇跡の出逢いである。世間は広いようで狭いが、それは山も同様なのだろうか。下山後、やり取りをさせていただき、「ぜひ合同登山をしましょう」ということになり、福島支部内で話し合い、浅草岳がいいのではないかとということで、今回の企画にいたった。

6月8日は、前乗りで只見町にお越しいただき、只見駅からほど近い^{やまびこ}民宿「山響の家」で懇親会を行った。民宿の女将である鈴木サナエさんには、これまでも福島支部でお世話になっている。挨拶や乾杯をし、山菜の天ぷら、煮物、川魚の焼き物など、ふるさとの絶品料理に舌鼓を打ちながら、皆で山談義に花を咲かせた。記念撮影もし、本当に楽しいひとときを過ごした。個人的にはもはや、楽しさのあまり一瞬で終わったような感覚である。翌朝も早いので、22時には就寝した。

6月9日は、4時に起床。サナエさんに用意していただいたパンの朝食を食べ、作っていただいた昼食の豪華な弁

当もきちんとザックに入れ、宿を後にした。六十里登山口までの道中、少し寄り道をして、田子倉ダムから奥会津の山々を眺める。登山口に到着し、登り始める。私はユースクラブと下山口^{いりかのうづ}の入叶まで行動を共にしたが、福島支部三役は途中の鬼ヶ面山まで同行し、その後下山し、車を下山口までサポートいただいた。

浅草岳山頂までは、いくつかのピークが連なり、アップダウンがある稜線を歩くが、この日は薄曇りで涼しく、またサンカヨウ、タニウツギ、ツバメオモト、ゴゼンタチバナ、イワカガミ、シラネアオイなどのたくさんの高山植物を確認できたこともあってか、とても気持ちよく歩くことができた。このあたりの山域にしか見られない「ヒメサユリ」はまだ蕾であった。6月中旬～下旬頃に確認できる植物であるが、近年の温暖化により「見られるかもしれない」と期待していたのである。残念だが、これもまた自然の営みとして、あるがままに受け止める。なにより、昨日の交流ですでに花を咲かせることができたのだから。山頂では、皆で弁当を美味しくいただき、ユースクラブの皆さんの電車の時間もあるため、ブナの森を少し急ぎながら下山し、宿に挨拶し、お別れした。これからもいろいろな企画を計画・実施し、様々な交流を重ねていきたい。

（福島支部・ユースクラブ 氏家宥紀）



懇親会での楽しいひととき



浅草岳山頂でニコリ

学生部主催で、花谷泰広さんの講演会を開催！

6月13日、東京・新宿にて、信州大学山岳会OBの花谷泰広さんの講演会を開催した。現在、甲斐駒ヶ岳七丈小屋などの運営、登山道保全活動を行う「北杜山守隊」代表理事、若手登山家の育成を目指す「ヒマラヤキャンプ」など、山に関わるさまざまな事業を行っている花谷さんの「原点」について大いに語ってもらった。

学生部では6月13日夜に信州大学OBの花谷泰広さんをお招きして講演会を実施しました。2022年度の海外登山勉強会など、これまで学生部では大学生に海外登山を身近に感じてもらうための活動を実施してきました。それらを通して、学生の中で最先端のクライマーをお招きして大学生にとって刺激となるようなお話をしていただく構想が生まれました。2024年3月の海外登山報告会にて花谷さんにお会いして相談したところ、今回の講演をお引き受けいただけることになりました。松原尚之さんや現役の学生と相談し、一方通行でお話をうかがうのではなく、少人数で対話主体の形式として学生にとって刺激的な場とすることを目指しました。

上記のコンセプトを踏まえ、花谷さんには学生時代からこれまでの登山活動と、大学山岳部員として強くなるための方法についてお話していただきました。講演の冒頭では花谷さんから参加した学生たちに「所属大学と名前を教えてください」との申し出があり、その後は近い距離感で随時学生から質問を挟むかたちで進行了しました。

最初に小学校5年生で登山を始めたことや、高校時代のトレーニング、信州大学山岳会の特徴などについてお話がありました。その中でも登山を始めた時期の早さや、高校時代の山行日数（200日超）は衝撃的でした。また、現役時代に2回ヒマラヤに連れて行ってもらうなど、恵まれた学生生活を過ごすことができたとのことでした。

そのほかにも、大学卒業後に30代になり、しっかり稼ぎ、しっかりトレーニングを行う循環が整ったことで良い登山ができるようになった。学生時代は一番時間のあるタイミングであり、親にも守られているのでそれをできるだけ利用した方がよとのアドバイスも

ありました。

講演会の中盤からは、今年秋のプンギ遠征隊のメンバーから質問があり、限界の見極め方や高所登山の組み立て方など登山の考え方に関するお話をしていただきました。限界の見極め方としては綻びが生じた瞬間にリカバリー可能か考え、リカバリーが不可能な場合には撤退するといった考え方を聞くことができました。また、山では努力は報われないなど、率直なお話を聞くことができました。

僕自身は3月で大学を卒業したため、山岳部員という立場ではありませんでしたが、今回の講演会では実感を伴ったお話をうかがうことができました。特に限界の見極め方についての考え方は、今後の山行に生かしていきたいと思います。また、忌憚のないお話から、技術よりも体力・経験を重視する大学山岳部のあり方の有効性を確認できました。

参加した学生からは講演後の第一印象として、とにかく面白くて、ほかでは絶対に聞けない話を聞くことができた、という感想が出てきました。大学山岳部の部員のみを対象とした講演会という枠組みにより、学生にとって実感なお話をしていただけたと考えています。突然のお願いにもかかわらず快く講演をお引き受けいただいた花谷さん、会場の手配などにご尽力いただいた松原さんには改めて感謝申し上げます。

(2022年度学生部委員長 中田康太郎)



花谷さんを囲んで、参加者全員で記念撮影

日本山岳会学生部プンギ遠征隊 近況報告

学生部のプンギ遠征隊の出発までおよそ2ヵ月となった。トレーニング山行や準備なども順調に進んでいるようで、近況を報告してもらった。

■ 6月4日～5日／クレバスレスキュー訓練

富山県立山にてクレバスレスキューの訓練を行いました。1日目は国立登山研修所にて自己脱出や1／3引上げシステムの確認を行うとともに、自分たちの持っている道具とロープの相性を研究。その後、雷鳥沢キャンプ場まで上がり、テントを張って幕営。2日目は実際の雪壁を使ったフィールドトレーニングを行い、コンテ中にクレバスに落ちた際の止め方や、そこからの引き上げを練習しました。机上で学び、知識として知ってはいましたが、実際に行くと新しく発見することも多く、山でトレーニングして学ぶことの大切さを再認識しました。

■ 6月22日／日本山岳会総会出席

遠征への寄付のお願いのため、総会と懇親会に参加してきました。元々は3分の予定だったのが、総会が

早く終わりそうとのことで30分お話をするお時間をいただき、計画書をベースに私たちの登山の計画を詳しくご説明できました。

懇親会ではさまざまな方から応援のお言葉と、いろいろな山や人生のお話をお聞きすることができ、とても良い刺激となりました。

いよいよ遠征出発まで約2ヵ月。隊員のうち2名は富士山でガイド、1名は富士山頂の山小屋でアルバイト、1名は北アルプスの山小屋でアルバイトをして遠征費を稼ぎつつ、高所トレーニングを進める計画を立てています。国内でできる限りのことをコツコツと行い、やれることはやったと思える状態で遠征に臨みたいと思っています。

(学生部プンギ遠征隊総隊長 井之上巧磨)



国立登山研修所でのトレーニング



隊員全員で総会に出席

■ 日本山岳会学生部プンギ遠征隊 ご寄付のお願い ■

私たちはこの遠征を通して、日本山岳会や大学山岳部の活動や文化を広め、海外の高峰で得られた経験を次世代の学生に役立てたいと考えています。日本山岳会の皆様にはぜひご寄付を賜りたく、以下に振込先口座をお伝えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【遠征隊専用口座】

銀行名：三菱UFJ銀行 支店(店番号)：渋谷支店(135)

口座種別：普通 口座番号：2929324

口座名義：イノウエ タクマ

(団体口座の開設が難しかったため、個人口座を新規開設して遠征隊専用口座として使用しています)

※日本山岳会会員の方は、振込名義の名前のあとに「会員番号」をご入力ください。